

特集

看護研究における 報告ガイドライン2

前号に続き、本号でもさまざまな報告ガイドラインを紹介いたします。前号では、報告ガイドラインの意義や活用の方法について探りつつ、中でも重要となる6つのガイドライン (CONSORT, STROBE, PRISMA, COSMIN, RECORD, COREQ) について紹介しました。EQUATOR Network のウェブサイトを見ると、現在400以上のガイドラインが存在し、いまなお増えています。本号では、その中から30を厳選しました。1号と同様に研究デザインベースの報告ガイドラインのみならず、看護研究とも密接に関連する心理・社会的側面に関する報告ガイドラインや、特定の専門分野に関する報告ガイドラインなども加え、幅広いラインアップになっています。その多様性には目をみはるばかりで、中には看護研究事例がまだ数少ないものもありますが、看護研究の多様な発展がめざされる中では、いずれも等しく大きい重要性をもっていると思われます。

今後、さまざまな研究に取り組まれていく読者の方々の一助となれば幸いです。

『看護研究』編集室

企画：友滝愛 (国立看護大学校)

深堀浩樹 (慶応義塾大学)

宮下光令 (東北大学大学院)